

事故報告書									
事故等の種類※1	①労働災害 ②負傷公衆災害 ③もらい事故 ④物損公衆災害 ⑤その他				工事事務所名		〇〇工事事務所		
					工事監理者		〇〇設計事務所 (主任監理員: 〇〇 〇〇)		
発生の日時	〇月〇日00:00頃		天候	晴れ		発生場所		〇〇県〇〇市〇〇 〇-〇-〇〇	
工事件名	〇〇〇〇団地建設その他工事				履行期間		始: H00.00.00 至: H00.00.00	請負金額	000,000(千円)
受注者名	㈱〇〇〇〇建設				現場代理人名 (連絡先)		〇〇 〇〇 000-0000-0000		
監督業務受注者	㈱〇〇〇〇建築設計事務所				主任監理員名 (連絡先)		〇〇 〇〇 000-0000-0000		
工事等の概要	対象工事の概要を簡潔に記載								
事故等の内容	氏名 (イニシャル)	年齢	性別	職業	所属	死・傷等病名と その程度		入院先等	
	R. H	0	男	とび工	(株)〇〇建設	〇〇部骨折 (全治〇ヶ月)		〇〇〇〇病院	
	発生日時、概要、被害者の有無、公衆災害の有無、近隣施設又は隣地への被害の拡大の有無等を簡潔に記載								
受注者との関係	元請・下請 ()の社員 その他() ※被害者があった場合、関係を記載								
事故等発生 当時の状況	事故発生時から報告までを時系列ごとに簡潔に記載								
事故等の原因	発生した事象の原因を分析して簡潔に記載 (人的要因、自然現象、工事の特性等発生原因の分析)								
事故等処理 状況及び 対応措置	時系列ごとに対応、措置内容を記載 ・被害者があった場合の応急処置、対応 ・インフラ等に被害があった場合の対応及びお客様への応急措置 ・関係諸官庁への報告状況及び指導等の有無 ・復旧予定時刻(完了時刻)及び明日以降の予定								
事故発生箇所に係る 施工計画または 施工要領の概要	発生した事故・事象が工事に起因する場合に記載する … 該当する工事に係る施工計画書及び施工要領書に記載されている作業手順、安全管理の方法や作業場の安全確認方法を確信した上で本件事故発生要因を分析 → 計画で行うべきとしていた事項と実際行われていた事項の比較・分析を行い事故の発生要因を分析する ※第1報では不要だが初動対応が落ち着いた段階で工事再開に向けて速やかに検証を行うこと								
事故発生箇所に係る 工事監理方針	発生した事故・事象が工事(監理)に起因する場合に記載する … 該当する工事に係る作業手順及び完全に関する工事監理方法の確認 → 施工内容に対し行うこととなっていた工事監理の内容と実際の工事監理の相違点等を分析する ※第1報では不要だが初動対応が落ち着いた段階で工事再開に向けて速やかに検証を行うこと								
再発防止策	施工計画等及び工事監理の計画と実態の差異を把握し、再発防止に向けて講ずべき措置を確立し、工事事務所、必要に応じて工務グループへ報告を行う ※周知徹底、厳格化等の表現上の措置にとどまることなく具体的に防止策を策定する								
監督官庁等の 動向	・第三者、作業員に死傷者がいた場合には容体確認を優先するとともに、労働基準監督署、警察署等関係部署との動向について記載する ・関係諸官庁の動向により、社会性が高いと判断される場合には至急、監督員を経て本部等へその旨の報告を行う								

※ 個人情報が含まれないよう記載する。

※1 事故の分類

- ①労働災害：工事作業が起因して工事関係者が死傷 / ②負傷公衆災害 工事作業が起因して当該工事関係者以外の第三者が死傷
③もらい事故：第三者の行為が起因して工事関係者が死傷
④物損公衆災害：工事作業が起因して当該工事関係者以外の第三者の資産に損害 / ⑤その他：上記に該当しない事故・不具合等